



人間は裁判官 他人は有罪 自分は無罪

新型コロナウイルス感染者数が急拡大しています。2学期後半、感染状況が落ち着いてきて少し油断があったかもしれませんが、これまでの感染対策、マスクの着用、手洗い、手指の消毒、ソーシャルディスタンス等をもう一度、気を引き締めて徹底してください。そして、毎朝検温し、熱がある、かぜのような症状がある場合は、登校せず自宅で休養してください。

これまでの新型コロナウイルス感染症の拡大期には「自粛（じしゅく）警察」なるものが登場して問題になりました。緊急事態宣言が出されている地域で、営業を続けている飲食店や商店、東京などから帰省してきている人がいる家に、「自粛ができていない。すぐやめろ（東京へ帰れ）！」という内容の張り紙をされた事件のことです。まず、他人の家に無断で張り紙をするということが、そもそも違法行為です。この他、ネットや SNS で店名や個人名を出して非難するというケースもありました。

さて、お寺には掲示板を設置していることがあります。門や、よく目につくところに掲示板を設置し、短い言葉で、いろいろなことを教え諭（さと）してくれるのです。「人の悪口はうそでも面白（おもしろ）いが、自分の悪口は本当でも腹がたつ（愛媛県 龍澤寺）」「あんたが悪いと指した下の三本は自分を向いている（鳥取県 三佛寺）」など、心にグサッとささるものがあり、定期的に更新されています。

「自粛警察」が問題になっていたころ、築地本願寺（東京）の掲示板に、次の言葉が掲載されて話題になりました。「人間は裁判官 他人は有罪 自分は無罪」。私たちはいつも自分の考えや理性に従って善悪、有罪・無罪の判断を下しますが、その判断は自分に対しては甘く、他人に対しては厳しくなる傾向にあります。様々な判断をする時、このことを頭の片隅に置いておかなければなりません。

ある元高等学校の校長先生から教えてもらった「全員が『悪人』の家」という話を紹介します。「浦島伝説」No.23 で紹介した「極楽と地獄の違い」に似ているかもしれません。

あるところに、「いつもケンカばかりしている一家」と「ぜんぜんケンカをしない一家」が隣りあって住んでいました。ケンカばかりしている一家は、それはそれはつまらない事で毎日ケンカが絶えません。例えば、床に置いてあった本に奥さんがつまずき、崩してしまったら…。

「ちょっと、誰よ、こんなところに本を積みっぱなしにして！」

「オレだ！ ああっ、せっかく順番どおりに積んであったのにバラバラになってしまったじゃないか！ もう少し注意して歩かんか！」

「アンタがこんなところに本を積んでおくのがいけないでしょ！」と、あっという間にケンカになる。

そんな、「ケンカ一家」のダンナさん。「いったい、隣りの家は、どうしてぜんぜんケンカをしないのだろう…」と不思議に思い、ある日、「仲良し一家」のダンナさんに聞いてみます。

「お宅はいつもニコニコとして、ぜんぜんケンカをしていないようですが、何か秘訣でもあるのですか？」

すると、「仲良し一家」のダンナさんから、耳を疑う返事が返ってきたのです。「ウチは皆、悪い人間ばかりなので、ケンカにならないんですよ」

えっ？ と思う「ケンカ一家」のダンナさん。今のって、「良い人間ばかり」の言い間違いでは…？ 不思議に思っていると、「仲良し一家」の家の中から、奥さんの声が聞こえてきます。

「あら、ごめんなさい。せっかく本が床に積んであったのに、つまずいて崩してしまいました」

それに対して、お姑（しゅうとめ）さんの声。「私の方が悪かったわ。息子がこんなところに本を積んでいるから、片付けようと思っていたのに、つい、そのままにしていたのよ」

すると今度は、家の中に向かってダンナさんが叫びます。

「いや～、そんなところに本を積んでおいて、オレこそ悪かった。ケガは無かったか？ 片づけるから、そのままにしておいてくれ」

この会話を聞いた「ケンカ一家」のダンナさんは、すべてを理解しました。「なるほど、仲良し一家では、みんなが『私が悪い、私が悪い』と言っている。たしかに全員が＜悪い人間＞だ。これは、たしかにケンカになるはずがない…」